



黒字でも油断大敵!?

しきんぐ 資金繰りで押さえるべき5つの対策



資金くり!

企業経営をする上で売上や利益の管理と同じくらい重要なのが資金繰りです。2024年上半期の倒産件数は4,887件と前年同期4,006件と比べて881件(22%)増加しています※1。利益が出ていない時だけでなく、利益が出ている時でも倒産の可能性は0ではありません。

今回は資金繰りに着目して改善の対策をお届けします。最後に特典もありますのでぜひご覧ください。

※1(“全国企業倒産集計2024年上半期報”,帝国データバンク, <https://www.tdb.co.jp/tosan/syukei/24kami.html>参照 2024-9-18)

【資金繰りが厳しくなる主な理由】

① 現預金の回収が遅い

仕入から売上代金の回収までの期間が長くなると、経営に必要な資金が多くなります。

例えば、在庫として保管されている期間が長い場合や請求してから現預金を回収するまでの期間が長いと資金が滞留します。在庫や売上債権が多い場合は注意が必要です。

② 現預金の支払が早い

一般的に、仕入など先行投資がある場合が多いです。会社の成長に伴って、仕入や外注費が増加する場合や取引の規模が大きい場合は注意が必要です。

③ 資金繰り表を確認していない

資金繰りが厳しい原因がわからなければどんな手を打てば良いか分かりません。効果的な行動をするために、資金繰り表の確認が必要です。

【資金繰り改善の対策】

① 資金繰り表を確認する

資金繰り状況を分析し、改善点を明らかにします。また、資金繰り予定を把握することで資金調達が必要な時期や金額が分かります。

② 売掛金の回収を早める

取引先と交渉して、売掛金回収期限の早期化や一部を前受金とすることで現金化を早めることができます。時には約束手形や電子記録債権を銀行で割引きする対策が考えられます。

③ 在庫の適正化を図る

過剰な在庫は販売までの期間が長くなり、結果として現金化が遅くなります。セールなどで在庫を処分し現金化を図る対策が考えられます。



④ 買掛金の支払を遅くする

取引先と交渉して、買掛金の支払期限を遅くすることやクレジットカードを利用することで現金決済と比べ、支払いを遅くすることができます。

⑤ 資金調達をする

対策を講じても資金が不足する場合は、金融機関などから資金調達することが考えられます。融資に関して、信用金庫の支店長から下記の内容を直接伺いました。

- 融資時は、返済できる根拠が数字で表されていることを重視している。
- 定期的に経営状況の説明があると融資しやすい。
- 説明時は試算表だけではなく、資金繰り表が必要。

資金繰り表は自社内で改善するだけでなく、金融機関と良い関係を築くためにも利用できます。

【まとめ】

企業経営には資金繰りが非常に重要です。もし、半年前に資金繰り状況が分かれば様々な対策ができます。より良い経営のため、ぜひこの機会に資金繰り表を活用して事業の見通しを立てていただければと思います。資金繰り表の作り方がわからない、時間がないという声をよくお聞きします。そこで、特典をご用意しました。

①【資金繰り表フォーマットプレゼント】

資金繰り表の作成にご活用ください。

特典①②のお申込みは[こちら](https://www.hyogo-houjin.or.jp/news/hyogotimesvol-169/)。

(<https://www.hyogo-houjin.or.jp/news/hyogotimesvol-169/>)



②【モニター 限定5社募集】

資金繰り表作成支援サービスを開始しました。

募集締め切り：10/31(木) 17:00

定員に達し次第、締め切りますので、予めご了承くださいませ。



※内容に関するお問合せ・ご相談はひょうご税理士法人までお願いします。(担当：山口)